

# ～香農だから可能に出来る～

## 地域密着！未来を育むプロジェクト

代表者 吉田光寿（農学部応用生物科学科2年）

### 1. 目的と概要

このプロジェクト事業は、農学部だからできる活動を通して、地域と大学が交流し、地域、大学が活性化することを目的としています。今年度の活動としては、ジュースの開発と食育収穫体験の2つを行いました。ジュース開発では、農学部で研究、栽培されている作物を使い香川大学農学部を紹介するという目的で行いました。食育収穫体験は、昨年度から継続しての活動でした。子どもたちに対し、自分たちが普段食べている野菜がどのようにして作られているのか、実際に農作業を行うことで食べ物や農業について興味を持ってもらうことを目的として行いました。

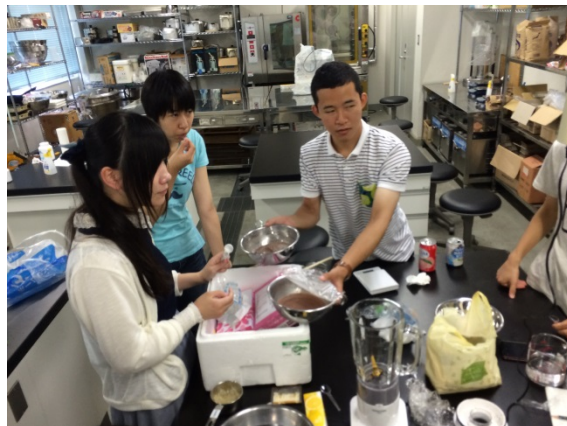
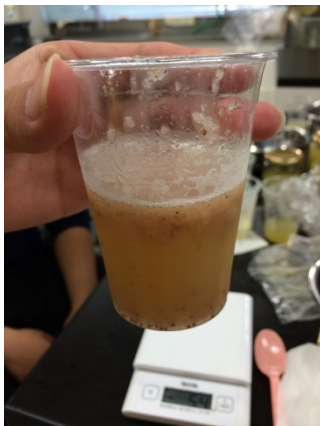
### 2. 実施期間（実施日）

平成27年6月1日 から 平成28年3月31日まで

### 3. 成果の内容及びその分析・評価等

[ジュース開発について]

まず初めに農学部で研究されている植物を元に、使用する作物やジュースの種類について決定しました。試作を重ねた結果、紅茶にイチゴ、キウイをシロップとしてブレンドする方法になりました。イチゴ、キウイは農学部で研究や新品種の開発が行われており、紅茶も元になる茶葉を農場で育てているということで、ジュースの全てを農学部に関連させることに成功しました。



試作の様子

その後は、使う紅茶の種類、シロップの量や濃度についての試作を行いました。紅茶の種類においては、サークル内で試飲を行い、最も評判の良かったアールグレイに決定しました。シロップについては、意見が分散したため、票の多く集まった4種類の組み合わせを一般の方々180名に11月3日の収穫祭で試飲、アンケートを取りました。その結果より、イチゴ、キウイそれぞれのシロップの分量は、1杯(100ml)につき15mlに決定しました。

また、同時に収穫祭においてジュースに使われているイチゴ、キウイの紹介と農学部が行っている研究内容についての紹介を行いました。

いちご  
**苺**

## 苺の種類

苺には60種類以上の品種があります

とちおとめ: 東日本No.1シェアの品種  
出荷時期: 11月上旬~5月中旬

あまおう: 福岡の苺  
出荷: 11月下旬~5月下旬

<http://fukuoka.in.coocan.jp/13/031305.html>より

## 苺の品種改良

現在主に食べられている苺はオランダイチゴと呼ばれ、北米産のバージニアイチゴと南米産のチリイチゴをかけ合わせて作られたものです。

## 香川大学でつくられているイチゴ

野生種との掛け合わせにより、品種の向上を目指す  
日長反応を利用し、収穫時期を調節する

||

年中苺の栽培が可能に!

気になった方は北側実験農場へ

## キウイフルーツについて!

日本で一般に販売されているキウイフルーツは2種類に分類できます。

・キウイフルーツの種類

①デリシオサ種

果肉は緑色で果皮に毛が多く、硬いのが特徴です。一般に「キウイフルーツ」と言われてイメージするのはこちらではないでしょうか?  
例:ヘイワード、香緑(こうりょく)



②チネシス種

果肉の色は黄色で果皮に毛が少ないのが特徴です。一般に「ゴールデンキウイ」とも呼ばれますが、これはこの種の総称です。  
例:さぬきゴールド



香川大学農学部と香川県の共同研究により開発された新品種

「さぬきキウイっこ®」について!!

2013年3月に商標登録された新品種の『さぬきキウイっこ®』は「シマサルナシ」と「キウイフルーツ」の交配により誕生しました。『さぬきキウイっこ®』は全部で5品種あり正式名称は「香川UP-キ1~5号」です。

特徴として  
①糖度は17~20%できわめて高い。  
②出荷時期が「ヘイワード」よりも早いため  
③樹の大きさは「小」から「中」で手入れがしやすい。  
④病気につよい。



キウイフルーツはもともと中国原産の植物です。猫が好む「またたび」の仲間にあたり、中国からニュージーランドで品種改良され、世界中で販売されるようになりました。香川県では昭和64年に香川県農業試験場で香緑が新品種として登録されました。それ以来、香川県立農業試験場や香川大学農学部を中心にキウイフルーツの品種改良が行われています。「さぬきキウイっこ®」は2013年3月に商標登録された農学部発の新品種です。興味のある方はぜひ香川大学農学部片岡研究室(CE206号室)へ!

## 制作したイチゴ、キウイのポスター

その後、シロップに入れる砂糖の量などいくつかの事項について試作を行い、それぞれについてのレシピを決定しました。このプロジェクトの目的でもある研究内容の紹介、大学と地域の交流の為に、2月28日に三木町で開かれる三木マルシェに出店をします。各200杯を提供し、同時にパンフレットなどで研究活動の紹介を予定しています。また、イチゴとキウイどちらの紅茶がより美味しかったかのアンケートを取り、最終的に票の多い方をジュース開発の完成レシピとしたいと思います。

## [食育収穫体験]

食育収穫体験では、まず初めに農学部キャンパス内の空き地をお借りさせていただき、草抜きや土起こし、施肥などを行いました。元々畑だったのが放棄された土地であり、土が固く栄養分も少なかったため牛ふんや石灰などの堆肥を数回行うことで畑として、野菜を育てることの出来る土になりました。その後、じゃがいも、人参の栽培を行いました。日射量や土の問題から生育も遅かったのですが、追肥や土を柔らかくし、収穫出来る大きさまで無事成長しました。





雑草抜き、施肥の様子



栽培直後の畑



収穫前の畑



12月5日、三木町に住む子ども16名を招待し、食育についての授業、収穫、調理を行いました。授業では、作物の成長過程の説明やクイズで食育、作物についての知識を深めてもらいました。その後、実際に畑に出て収穫を行いました。じゃがいもや人参を掘り上げると子ども達から歓声が起こり、子どもたちも楽しそうに収穫をしていました。最後に、じゃがいもと人参を使ってカレーライスを作りました。私たちと子どもたちが一緒になって野菜を切ったり、煮込んだりしてカレーライスを作りました。



授業の様子



収穫の様子



実際に収穫した作物





調理の様子



メンバーと全体写真

収穫体験後の2月18日に、今回使用した畑に石灰などを入れました。この作業により、畑の栄養状態が改善され、再び畑に作物を植えられるようになりました。

それぞれの評価として、ジュース開発は商品化までは至らなかったものの、研究内容の紹介や地域との交流という第一の目標は達成できたと思います。食育収穫体験では、クイズ形式の授業や写真を多く使うことにより、昨年よりも子どもたちに農業について深く感じるような授業を行えたと感じています。収穫出来る量が少なかったことが改善点ですが、それ以外は昨年度よりも濃い内容の活動が行えました。

#### 4. この事業が本学や地域社会等に与えた影響

このプロジェクト事業を実施したことによる影響として、学生と地域の方々との繋がりを作ることが出来たということが挙げられます。希少糖以外の研究内容の紹介、大学の研究を地域の方々に還元すること、農業を実際に行うことによる食べ物や農業への興味関心の向上など、私達は2つの活動を通して地域の方々、子どもたちに伝えました。この2つの活動を通して、私達は香川大学農学部というものを地域の方々に感じてもらえたと思います。これは、収穫祭でとったジュース開発のアンケートや、収穫体験の親御さんとの会話から確信しています。また、地域の方々も、香川大学農学部の学生がどのようなことを行っているのかを理解してもらえたと思います。私達はこれからも様々な活動を通して地域との交流を深めていこうと思います。今回のプロジェクトもその一部として、大学を、農学部を身近に感じてもらい、農業のことを、食品のことを、人間は第一次産業を通じて様々な人と繋がりをもっているということを実感してもらえたと思います。

#### 5. 自分たちの学生生活に与えた影響や効果等

私達自身も、この2つのプロジェクトを通して、地域の方々との繋がりを感じました。私達は買ったもの、頂いたものを利用してこのプロジェクトを行いました。つまり、私達が活動を行うためには誰かの支えが必要であり、私達は1人では何一つ出来ないということです。これは考えれば当たり前のことですが、実際に何かを作る、何かをすることによって、人と人の繋がりを深く感じる事が出来ました。

また、交流をすることの大切さを知ることも出来ました。今の時代、特に大学生はインターネットで調べることが多いのですが、実際に活動を行っている途中、「カレーライスはどうしたほうが美味しい」「畑はどうしたほうがいい」「シロップはどうしたほうがいい」などと教わる機会が多くありました。私達はこのようなプロジェクトを行う途中で、地域に何を提供するかを考えることはよくあるのですが、実際は私達が学ぶことのほうが多いようにさえ感じました。地域の方々からすれば当たり前のことを私達は知りません。私達にとっては当たり前のことも地域の方々にとっては知らないこともあります。そこで、イベントを通して知識を、情報を、文化を交え合うということはとても重要なことだということを知りました。

夢プロジェクト自体からも、自分たちで立案、計画、実行することの大変さを学びました。予定を立て、それに沿って消化していくことがこんなにも大変なことだとは知りませんでした。

最後に、活動を通して、私たち自身も大学について、食と農業について深く知ることが出来ました。香川大学農学部に通う学生として、大学が何を行っているかを知ることが出来る機会があったというのは幸運なことだと思います。

これからも私達は様々な活動を通して、学生生活を充実したものとすると同時に、地域社会に目を向け、地域に貢献できる活動を行っていきたいと思います。

## 6. 反省点・今後の抱負（計画）・感想等

### [ジュース開発]

ジュース開発の反省点としては、管理が行き届いていなかったことです。メンバー内の情報伝達が不足しており、活動の内容を伝えきれていなかったことです。また、備品の管理が行き届いていないこともあり、二度手間になることもありました。今後、活動を行っていく上で、情報伝達や備品管理を徹底していきたいと思います。ジュース開発の今後の抱負としては、来賓の際に提供のお茶の代わりに今回開発した紅茶を提供したいと考えています。農学部を訪れる人に、農学部を知ってもらおうきっかけにしたいと考えています。

### 「食育収穫体験」

食育収穫体験の反省点としては、実施の人数が少なかったということです。今回16名しか招待が出来ませんでした。これは、畑の面積や教室の規模などを考えると仕方のない部分でもあります。私達はこの食育収穫体験は毎年行いたいと考えています。来年度も行うことができるのであれば、畑の面積を大きくし、午前と午後の2回に分け、もっと沢山の子どもたちに参加してほしいと考えております。

## 7. 実施メンバー

代表者 吉田 光寿（農学部2年）

副代表 先森 永葉（農学部3年）

### 構成員

（農学部3年）古賀希望 坂田健太郎 佐々奈於美 佐藤航平 高岡里菜 田中花奈  
豊永大地 中尾碩孝 野崎智絵 堀晃宏 真鍋芹菜

（農学部2年）東美菜子 乾優依子 岡場悠里 小川和暉 川崎稔弥 酒井大地  
貞松千琴 白石知也 多田百花 田野雅子 永田真季子 福井悠  
福田銀仁 堀田吏香 松村大地 森本貴行 矢野里実 弓取龍

（農学部1年）青葉実優 安倉佳杏 安藤愛海 池本胡桃 井上楓 今村友紀  
大西由真 大坊寿成 金川優樹 紙本拓也 北川黎 葛谷晃一郎  
小池裕之 佐藤修三 鈴木優 高松茉衣 田籠星太 田中滉己  
為平紗也 田中真優子 富田真澄 中島健登 夏目佳奈 萩原奏  
橋本朗 平田篤司 松浦汐里 宮脇愛子 森重雄太 山田実里  
山本貴恵 米島明奈